

重戦車が行く '09 春

初日：串間～鹿屋 45km

2日目：鹿屋～根占 24km

指宿～大山 13km

大山～枕崎 36km パス

### < 借り >

7月10日、私は今、枕崎にいる。4月のジャーニーで作った借りを返したところだ。大山～枕崎 36km という借りを。

4月22日水曜日 6:00 に起床、やや頭が重い。昨日の串間～鹿屋 45km は、SP ナガオカ氏のリードで難なくこなした。力強い道連れだ。

ところが、夜になると彼は真の実力を発揮し酔連れに豹変、鹿屋の居酒屋をハシゴする破目になった。地酒を何種類も痛飲し、千鳥足でホテルに帰る始末だった。

アルコールを前にすると、翌日のことはどうでもよくなる。大分 UMC の誇り高き、懲りない面々の内の二人だ。死んでも直るまい。

根占～山川フェリーの出港時刻は 11:10、道のりは 24km だから、8:00 に発てば余裕で間に合う。しっかり朝食を摂って行くことにした。

ホテル「しらさぎ」の朝食は¥500 で、多彩なバイキングだ。時間があるなら食わぬ手はない。二人とも、ここぞとばかりに詰め込んだ。

7:40 にホテルを出る。ちょうど通学時間帯だった。どの小中高生も、びっくりするほど挨拶が良い。佐伯でもいることにいるが、ここは全員である。本当に清々しい気分になれた。流石、鹿児島だ。

空自の飛行場を 3km ほど周った所で、早くも先ほどの朝食の影響が出始めた。食べ過ぎのツケだが、飛行場がずっと続くものだから、公園もコンビニもない。ナガオカ氏はもはや我慢できず、最寄りの中古車屋に飛び込んで用を足させてもらった。「広くてきれいで、ウォッシュレットだったで」、「うーむ、やるなお主」。私はシャイだから、こういうマネはできない。雉撃ちに頼るのみだ。

飛行場を過ぎた辺りで、今度は私が我慢できなくなったが、ちょうどコンビニがあったので助かる。極力、雉撃ちは避けたいものだ。

時間に余裕があるものだから、こうやってチビチビ時間を潰していく。錦江湾沿いに出たのは 9:00、根占港までは 16km だから楽勝だろう。

ところが、浜田という所からはアップダウンの連続で、上りは歩き下りは走りということ  
を繰り返していたら、ついにトロピカルガーデン付近で貯金を使い果たしてしまった。残り  
の 8km で、マジ走りを余儀なくされてしまったのだ。

こういう時、走力に差があることは不幸を招く。ナガオカ氏は、キロ 5 分は軽いが、私は、  
キロ 5 分半でも苦しい。ついつい差が 300m 程開く。

大根占の栄町という所を走っていると、「大根占～指宿フェリー右折 100m」の小さな看  
板を見つけた。彼は、気づいていない様子だ。港を見ると、フェリーボートが泊っている。  
「ここに寄っていった方が良くねえか。じゃーけんど、ナガオカさんはあんなに先を行っ  
ちやる。ケイタイで呼び戻すのもなんだしな。ええいままよ！こんまま行っちゃれ。」と必死  
に追いかけた。

どうにかこうにかして、手前にあるローソンに到着することができた。先着のナガオカ氏  
とターミナルビルに行くと、そこに待っていたのは非情にも、「欠航」の二文字。ガーン！  
ガーン!! ハンマーで後頭部を殴られたようなショックだった。こんなんありかよーと嘆く  
間もなく、大根占方面行のバスが入って来た。すかさず飛び乗り、先ほどの港に戻った。

フロントのお姉さんに尋ねると、すでにフェリーは 11:00 に出港したと言う。向こうのフ  
ェリーは、ドッグ入りで今日まで欠航、一隻で往復しているからどうしようもない、とのこ  
とだった。あーあ、ここを通る時は 10:40 で、寄っていけばなんのことはなかったのになあ。  
いくら悔やんでも後の祭りだ。

次の出港時刻は 14:30 で、3 時間待ちだ。仕方なく、近くの食堂で昼飯を食べ、生ビール  
を 2 杯呷り、波止場で不貞寝を決め込んだ。

15:40、やっとの思いで指宿に渡れた。9km くらいしかない海を 5 時間もかけて渡ったこ  
とになる。泳いでも 3 時間でいけるど。

ここで、ナガオカ氏とお別れだ。名残惜しいが、時間がない。ガッチリ握手をして、彼は  
鹿児島市に向かい、私は、菜の花マラソンのコースを逆走して、開聞岳方面を目指した。

私の不手際で、ドタキャンとした二日目だったが、ナガオカ氏にはお世話になりっ放しだ  
った。彼といっしょに走るの、肩が凝らないし、話も合うので楽しい。しかし、スピード  
の差は如何ともし難く、今回のような悲劇を招いてしまう。私一人だったら、あの時点で根  
占行きを諦め、大根占から乗っていただろう。ナガオカ氏一人なら、もっと早く根占に着き、  
すぐ引き返して大根占発 11:00 に乗っていただろう。

速い人も遅い人も、それぞれのペースっていうやつがある。土台、何日間もペースを合わ  
せられるはずがない。お互いに参ってしまう。やはり、ジャーニーランは一人でやるもの  
だとの結論に達した。

結局、私は 13km ほど走って大山駅で電車に乗った。もう一駅頑張れば、日本最南端の駅、  
西大山だったのだが、時間的に危険だった。ここは、二時間に一本しか電車がいない。

ナガオカ氏は、喜入まで走って温泉に浸かり、電車で鹿児島中央まで行き、夜行バスで翌  
朝家に帰ったそうだ。まったく、お疲れ様である。

一方私は、昼は昼、夜は夜だ。昼間の失敗を、いつまでも引きずってはいけない。やっぱ  
り、枕崎の夜は裏切らなかつた。鰹と生ビールと焼酎が歓迎してくれた。駅前の「一福」と

いう店で、鰹尽くしの料理を堪能した。タタキはもちろん、無塩鰹の洗い、モツの煮込み、腹側の塩焼き、ビンタという頭を丸ごと煮たもの等々、こちらではお目にかかれないものばかりだ。ぶえん鰹というのは、釣り上げた後、即血抜きをした鰹のことだそう。身が鮮やかな紅色で、にんにく味噌で食べる。これが一番うまかった。

そして焼酎は、南之方(みなんかた)と枕崎だ。南之方はお湯割り、枕崎はロックの方が良かった。

これでは、否が応でも明日へのヤル気が出るっちゅうもんだ。適度に切り上げて、20:00には寝た。近いうちに、借りを返しに来てやるぞと呟きながら。

ちなみに、大山～枕崎 36km は、ほぼフラットできれいな歩道が付いており、完璧なコースだった。ただ、7月中旬の午後の気温は半端ではなく、バックパックまで汗でびしょ濡れ、ランシャツとソックスは何度も脱いで絞らなければならなかった。日影は殆どなく、厳しい半日ランだった。ジャーニーランは、夏にやるものではない。